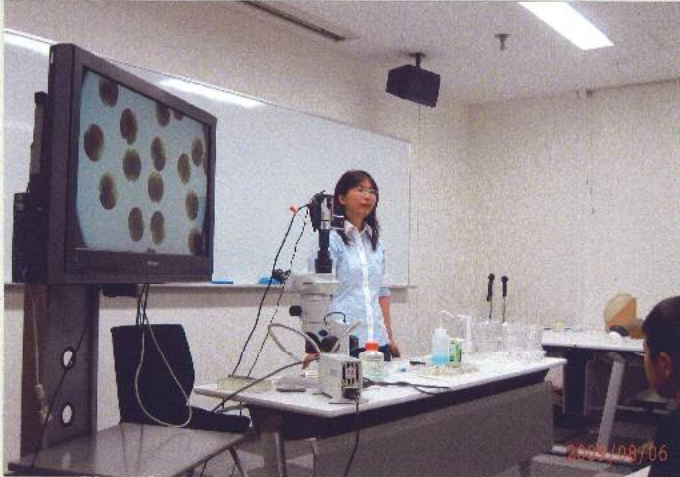


# 環境教育「まず、今できることから」

## 歴史に学ぶ

発行所: 地域環境活性化協議会  
 編集者: 代表幹事 高橋 賢一  
 事務局: 市民活動支援センター  
 尾張旭市 庄中町 塚坪 2099-1  
 (浅川福祉センター内)  
 TEL 0561-51-2878



こどもも環境大学  
第2講座 基礎生物研究所訪問

この事業は、愛・地球博開催地域社会貢献活動基金の助成金を受けています。



食田 智子 理学博士 准教授よりカエルの発生と受精卵の観察。遺伝子の説明を聞きながら画像を見ながら(右側写真)子供達。(アフリカツグカエルの卵の画像)

メダカは英語でもmedaka、日本の田んぼの魚が世界の研究室にもうろん宇宙実験でも使われています。その理由は、1年中卵を産ませることが出来ることと、胚が透明なので、一つの卵細胞から多細胞の組織や発生過程を観察することが出来るからです。



基礎生物研究所では生物の基本的な遺伝子の働きや細胞の働きを調べることで、生存環境に適応した生物が持つ能力を保持し、至つたしくみを調べることも重要な研究目標にしている。

遺伝子てなんだろう  
わかるかな!!  
脳細胞や体の動き、ノーベル賞狙うよ、構造を解明して化学合成し産業レベルの養殖に実用化できることを確証した。

基礎生物研究所(附時中) 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 高級マコ増やせる 生殖促すホルモン 解明

九州大学自然科学研究機構 基礎生物学研究所など 高級食料として中国で需要が高まっているマココは生殖行動を促すホルモンの精製に成功した。共同研究チームはマココの神経組織から精米や卵巣に働きかけ生殖を誘発する神経ホルモンを抽出、構造を解明して化学合成し産業レベルの養殖に実用化できることを確証した。

胚が透明なので、一つの卵細胞から多細胞の組織や発生過程を観察することが出来るからです。

空内を暗してメダカの卵を照らすと、みんなの視線がメダカに集まる。

メダカは産卵の淡水魚で、一九六二年に日本へ輸入された。美しい魚で成長も早いので、アフリカ産のメダカを改良して、弱いのを強く、病気に強いように改良して、養殖にも利用できるようにした。



体長20cmのメダカは日本でも春から夏にかけて見られる。東シベリアに広く分布しているが、北海道にはいない。寿命は2-3年。

